

和歌山だよいい

平成21年 9月号



生石高原ススキ (紀美野町)

*芒 (ススキ) ・葛は、秋の七草に数えられ

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P8
3. お知らせ…………… P9～P12
4. ふるさと歳時記…………… P13



葛 (くず)

「思考停止社会」

官製談合による知事逮捕という汚名を二度と着ることがないように、和歌山県の公共調達制度の大改正を行った時、検討委員会の委員長として知恵を貸してくれたのが郷原信郎教授です。その郷原さんが「思考停止社会」という著作を送ってくださいましたので、早速読んでみました。同感する所が多々ありました。

日本の現代社会は思考停止の社会になっているというのです。時々の主流の考えに対して、皆が自分でそうかなあと考えることなく同調し、それに反対の意見を唱えたり、行き過ぎを指摘したりする人々をまるで悪者であるかのように攻撃するため、時流に迎合する動きばかりが大きくなり、結果、社会が一斉に右に振れたり、またしばらくすると左に振れたりするというのです。

また、郷原さんは、このような動きはマスコミの報道によって増幅されるとも指摘しています。改革、偽装表示、郵政民営化、政権交代、談合防止、官僚支配・・・私たちの周りにも、スローガンが強烈なもので、中身を考えて、でもこの点は違うんではないかななどと言にくいものがたくさんあります。自分の頭で批判的に考えて、異論を唱えるのは勇気がいるのです。「世論」なるものに迎合して、時流に漂う方がずっと楽なのです。かくて思考停止社会ができてしまうのです。

しかしながら、いくら時流でも、間違った事は、いつかはその間違いが顕在化します。しかし、それは、行き過ぎとゆれ戻しの混乱とともにやって来ます。その時では遅いのです。我々は常に「ほんまにそうかしら」「なぜそうなるのかなあ」「そうしたら、こっちが無茶苦茶にならないかなあ」などといつも考え、仮に自らの考えが時流とは異なったものであったとしても、是々非々で、勇気を持って発言し、行動しなければならないと考えます。それが思考停止社会の弊害を免れる唯一の道です。

私もまた、愛する和歌山の未来のために、しんどいけれど勇気を持ってそのように行動していきたいと思えます。



和歌山県総合防災訓練において、挨拶する仁坂知事。

南海・東南海地震などを想定した災害発生時の訓練で、企業をはじめ、関係者 1,900 人が参加しました。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「和歌山県100年企業表彰」受賞者決定！

・県では、県内で100年以上にわたり伝統の技術や事業を守り、継承することによって、本県の経済発展に寄与し、他の企業の模範となってきた「長寿企業」を表彰する「和歌山県100年企業表彰制度」を平成19年度に創設しました。

・第1回目は、平成20年3月に37の企業を表彰し、今年度、第2回目の募集を6月に行いました。そして、経済団体の長などからなる審査委員会を経て、前回と同数の37企業を表彰することとなりました。

・今回受賞された企業を一部紹介いたします。

【老舗企業】

『(株)みそや呉服店』(橋本市：呉服、婦人服、雑貨販売)

---1465年(明応4年)創業、今年で514年目を迎える。味噌・醤油の製造卸業として創業、1865年(慶応元年)京呉服の販売業に転換し、現在に至っている。

『上御殿』、『下御殿』(ともに、田辺市龍神村：旅館業)

---1639年(寛永16年)に、龍神温泉を愛でた徳川頼宣公が藩費で両館を建築。

【頑固一徹ものづくり】

『(合)丸正酢醸造元』(那智勝浦町：食酢醸造業)

---明治12年の創業以来、スギ樽を使い古式醸造による酢づくりを一途に守っている。

『(有)儀平菓舗』(串本町：生菓子製造販売)

---明治26年創業、「うすかわ饅頭」の伝統を守り、ひとつひとつ手作りで職人が作り上げる。

【時代を反映】

『(株)やすい』(和歌山市：米穀販売)

---1851年(嘉永4年)に創業。大正時代に米騒動に遭いながらも、家業を再建。

『(株)中原製作所』(和歌山市：木製建具製造業)

---明治31年創業、戦時中に軍需省の命により木製グライダーを製造。

・他にも、モンドセレクションにおいて、21年連続最高金賞を受賞している「羅生門・龍寿」を製造する『田端酒造(株)』(和歌山市：酒造業)、和歌山の有名なお土産の一つである黒あめ「那智黒」を製造している『(株)那智黒総本舗』(那智勝浦町：食料品製造業)など、皆様もご存じの企業の方々が受賞されています。

・今回、紹介しきれなかった企業、及び前回受賞企業については、下記ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/100nen/100nen.html>

● 和歌山県と大手食品メーカーが共同開発した商品が続々登場

「ジャイアントパンダ」パン・「カラダにおいしい梅 紀州のかほり梅」発売

・県は、全国での県産品の認知度向上とその使用の促進を図るため、大手食品メーカーと共同して商品開発に取り組んでいます。

・この秋には、この取組により開発された商品が、山崎製パン株式会社（本社：東京都千代田区 代表取締役 飯島延浩）とサッポロ飲料株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役 鈴木英世）から販売されます。

・原材料には県産品がふんだんに使用されており、本県と協力して開発されたものであることを示す「和歌山県の県章と和歌山県協力商品の文字」が商品の袋に表示されています。

1. 山崎製パンの商品

(1) 商品名 「ジャイアントパンダ 2色パンチョコ&クリーム」 (菓子パン)

(2) 使用県産品

紀州備長炭 (チョコレートに使用) 紀州うめたまご (カスタードクリームに使用)

(3) 販売エリア

全国展開に向けて近畿2府4県で先行販売

(4) 発売日

平成21年9月 1日 (火)

【和歌山県のパンダ】

・国内で9頭しかいないパンダのうち7頭ものパンダが和歌山県白浜町で暮らしています。また、昨年9月には、全国で初めて日本生まれのパンダが双子のパンダを出産しました。



山崎製パン (株) 今野工場長 と知事 (県庁にて)



ジャイアントパンダ 2色パンチョコ&クリーム

2. サッポロ飲料の商品

(1) 商品名「カラダにおいしい梅 紀州のかほり梅」 (清涼飲料水)

(2) 使用県産品 うめ

(3) 販売エリア 全国

(4) 発売日

平成21年9月14日 (月)

(5) 特長

まるで梅酒のような、まろやかでコクのある

味わいと華やかな香り。同社との取組は、前回商品

「カラダにおいしい梅 とろり梅」以来2度目



カラダにおいしい梅 かほり梅

●「わがまち元気プロジェクト 第2弾」及び「新農林水産業戦略プロジェクト 第3弾」！！

★わがまち元気プロジェクト 第2弾！！

- ・地域資源を活用したまちおこしに積極的に取り組む市町村を支援する「わがまち元気プロジェクト」の第2弾として、御坊市及び由良町のプロジェクトの支援を決定しました。
- ・御坊市は、全国有数の花き産地として有名ですが、さらに産地の強化を図るため、生産と流通の低コスト化や、市場での販売促進と海外への試験出荷に取り組みます。また、ビニールハウスでの切り花体験や古い町並みが残る寺内町散策等を取り入れた観光とも組み合わせ、「花のまち御坊」としてのまちづくりを目指します。
- ・由良町は、本年、平成百景（読売新聞社主催）に認定された「白崎海岸」を核にしたまちおこしです。白崎海洋公園を中心とした観光客の受け入れ体制を整備し、体験型観光のメニューづくりや、地産地食の料理・特産品づくり等により、由良町の魅力を丸ごと体感できるまちづくりを進めるものです。



御坊市 切り花体験



由良町 白崎海岸

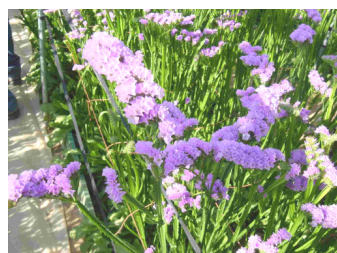
★新農林水産業戦略プロジェクト 第3弾！！

・第1弾（伊都地方のトマト）、第2弾（海草地方の貯蔵みかん他6プロジェクト）に続き、8月27日、第3弾として、下記3プロジェクトを承認しました。

- ①黒豆栽培における枝豆出荷の拡大と販路開拓（紀の里農業協同組合（紀の川市））
黒豆の枝豆出荷、新品種の導入、ビール会社直営ビアホールや量販店等への販路開拓。
- ②花き生産・流通の低コスト化とオリジナル品種の販売促進（紀州中央農業協同組合（御坊市））
「わがまち元気プロジェクト」と連携した、低温育苗施設による低コスト苗の供給、オリジナル品種の販売促進、海外への試験出荷。
- ③かんきつ類の出荷時期拡大のための生産・流通対策と加工品開発、販売促進（グリーン日高農業協同組合（由良町））
「わがまち元気プロジェクト」と連携した、かんきつ類と加工品開発による周年供給産地づくり、百貨店・高級果物店や市場等への販路開拓。



黒枝豆



スターチス



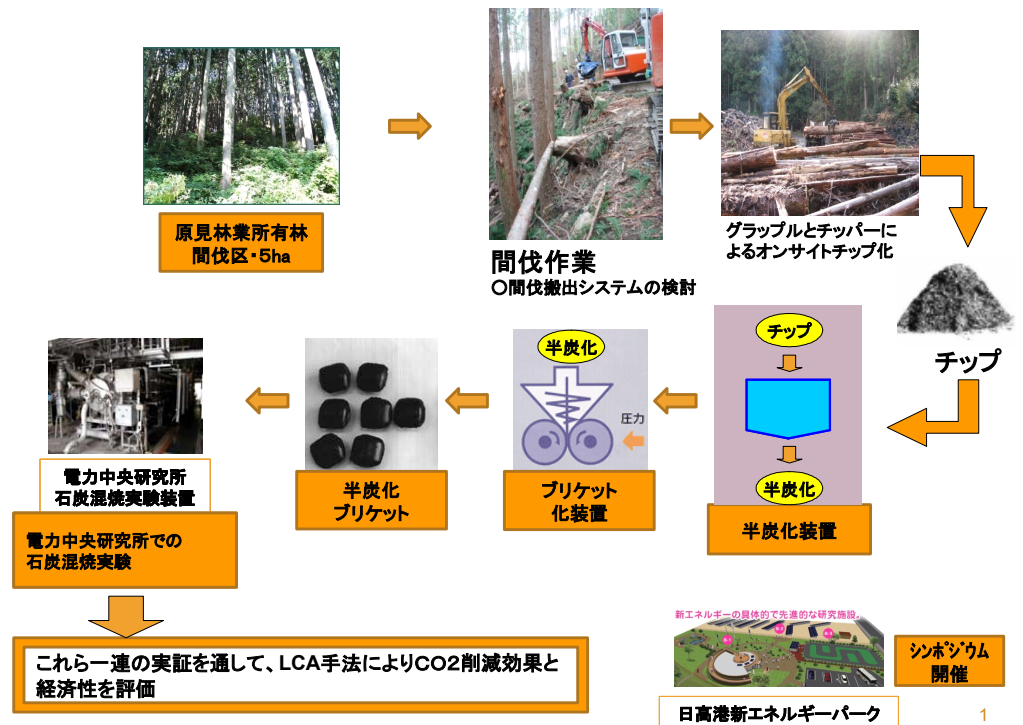
さつき八朔

・今後も、地域の魅力や特色を生かした地域おこしを積極的に働きかけ、取組の拡大に努めていきます。

●平成21年度 国補正事業 経済産業省の低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業に採択（未利用の間伐材を火力発電所で使える燃料に！）

提案事業のイメージ図

・県内の間伐材など未利用のバイオマス資源を活用して低コストで高発熱量のブリケット（豆炭状の燃料）を製造する技術を確認するための研究について、経済産業省の平成21年度補正予算事業である「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」に採択されました。



・県内では、年間43万7千 m³ に及ぶ未利用バイオマス資源が発生していますが、この研究が確立されれば、その多くを石炭火力発電所等の燃料として供給することが可能になるものと期待されます。

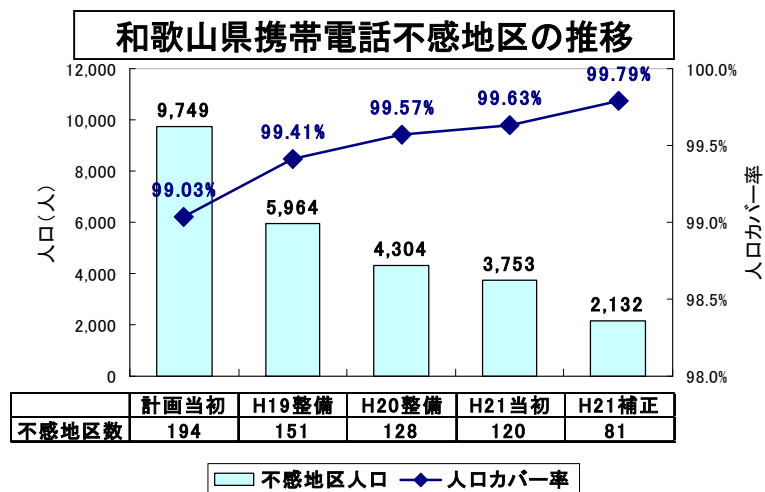
・今後は、この事業の成果を効果的に展開することにより、実証試験地である日高川町をはじめとする県内各地において、地域経済発展の新たな動脈となるバイオマスエネルギーの供給ネットワークの構築を目指していきます。

1. テーマ
バイオマス活用に向けた高発熱量ブリケット製造技術の開発と低コスト木チップ化実証試験
2. 事業概要
 - ・機械化オンサイト木チップ化技術の開発（搬出コストの削減）
 - ・高カロリー・高密度化技術の開発（輸送コストの削減）
 - ・高発熱量ブリケットと石炭の混合燃焼実験
 - ・LCA（ライフサイクルアセスメント）によるCO₂削減効果と経済性評価
3. 事業期間
契約開始日から平成21年度末まで
4. 事業費
総額8,942万円（全額 国費ベース）
5. 事業実施体制
 - 管理法人・・・(財)わかやま産業振興財団
 - 実施機関・・・和歌山県工業技術センターを含む、産学官8機関

●携帯電話エリア整備（国の補正を活用し整備を促進）

・県では、平成19年3月に「和歌山県携帯電話つながるプラン」を策定し、携帯電話が利用できない集落（不感地区）の解消を目指して、取り組んでいます。このたび、国の経済危機対策で携帯電話関連予算が大幅に拡充されたことから、この施策を最大限に活用して、9月補正で約6億円の予算を計上することといたしました。国の政策をうまく使って、携帯電話不感地区の解消を一举に進めようとするものです。

・この補正予算では、新たに県内39箇所の不感地区で携帯電話エリア整備を実施する予定で、これにより残る不感地区は81箇所となる見込みです。今後とも国の補助制度の活用や携帯電話事業者への働きかけなどに取り組み、携帯電話不感地区の解消を推進します。



●総務省『「ユビキタス特区」事業』で県内企業2社の提案事業が採択！

・総務省の予算に「ユビキタス特区」事業というのがあります。ユビキタスというのは、携帯電話等をベースにしていろいろな社会システムをつくり、人々の暮らしを便利するものです。また、それに対する企業の挑戦が、自社の技術開発力を上げ、営業力も上げるということになります。

・この度、総務省の平成21年度補正事業『ICT経済・地域活性化基盤確立事業（「ユビキタス特区」事業）』に係る委託先候補が決定され、公表されました。

・今回決定されたのは26社で、本県からは下記の素晴らしい2事業が選ばれました。

①和歌山市子ども元気アップ大作戦

(株)サイバーリンクス(和歌山市)が中心となり、和歌山市教育委員会、富士通ネットワークソリューションズ(株)が共同で提案しました。和歌山市内の子供が「健康」「食育」「体力」「学力」について、本人がきちんと統計を取ることで、規律正しく生活するきっかけとなり、教育委員会もその状況を把握して、子供たちの生活習慣に何か問題があれば対応することができるという試みです。

②観光情報の国際標準化を目指すためのユビキタス実証実験

～誰もが使える体系化されたユビキタス番号

・(株)見果てぬ夢(田辺市)が代表となり、(株)プロアクティブ、田辺市熊野ツーリズムビューローティー・アンド・ティー(株)が提案したもので、観光地に番号を付けていき、その番号を検索すると、全国どこにいても、瞬時にして熊野地域のいろいろな観光の情報が分かるというものです。

●レジ袋の無料配布中止、第2弾が10月1日にスタート

・レジ袋の無料配布中止は、本年1月23日からスタート（31事業者192店舗が実施）しているところですが、10月1日（木）から新たに次の5事業者28店舗で実施されることとなりました。

- ・宇治田（株）「スーパーウジタ」
- ・（株）ゴトウ本店
- ・ママショップ（株）
- ・（株）キリン堂
- ・（株）ジップドラッグ

・この取組は私たちのライフスタイルを見直し、マイバッグの持参を促進することで、ごみの減量と二酸化炭素排出削減による地球温暖化防止を図ることを目的としています。なお、第1弾のレジ袋の無料配布中止後、マイバッグ持参率は、14.1%（実施前）から90.5%（本年7月実績）に増加しています。

・9月4日、県庁において新たな事業者参入に係る「レジ袋の削減に関する協定締結式」が行われました。地球環境問題は、これさえやれば良いという決め手はなく、全員がそれぞれその気になって協力していくことが必要です。

●和歌山県観光統計調査結果

・本県を訪れた観光客へのアンケート調査を実施し、観光客のプロフィール、訪問先、目的、満足度、観光消費額等について、データの収集と分析を行いました。その結果は下記のとおりであり、今後、調査結果を参考に観光施策に活かしていきます。

◇本県を訪れる観光客の50%がリピーター！

・約半数の観光客が過去2年の間に和歌山県を複数回訪れている。リピーターが本県を選んだ理由は、「距離が近い」「以前来て良かった」「景色がきれい」など。

◇家族での来訪が40%、夫婦での来訪が24%！

・来訪単位では「家族」が40%と最も多く、「夫婦」の24%「知人・友人」の15%の順。来訪人数では半数以上が「3人」以下と、少人数での来訪が多い。

◇交通手段は、「自家用車」が60%！

・本県までの交通手段は「自家用車」が60%と最も多く、次いで「電車」の20%、「貸切バス」の7%。また、県内での移動手段も「自家用車」が多い。

◇来訪目的は、「温泉」がトップ！次いで「名所・旧跡巡り、古道ウォーク」！

・来訪目的は「温泉」が40%と最も多く、次いで「名所・旧跡巡り、古道ウォーク」の30%。若い世代では「スポーツ」や「レジャー施設で遊ぶ」が、50歳代以上では「神仏詣で」が多い。

◇和歌山を選んだ理由は、「距離が近い」「以前来て良かった」「景色がきれい」

・「距離が近い」が35%と最も多く、次いで「以前来て良かった」の24%、「景色がきれい」の21%の順。また、宿泊先を選ぶ理由としては「温泉が楽しめる」が最も多い。

◇観光地満足度は、「景色や風情」「静けさ・のどかさ」「料理や食事」

・観光地の満足度は、「景色や風情」が最も高く、次いで「静けさ、のどかさ」「料理や食事」の順。宿泊地の満足度では「温泉が楽しめる」が最も高い。

◇今後してみたいレジャーは、「温泉」「名所・旧跡巡り、古道ウォーク」「世界遺産探訪」

・その他として「グルメ・食べ歩き」、若い世代では「海水浴」が多い。

◇観光消費額は、2,094億円、経済波及効果は3,720億円！

・和歌山県内での観光消費額推計は2,094億円、経済波及効果は3,720億円で県内生産額の5.6%を占めている。

●Uターン人材誘致事業『和歌山で「和」の仕事人になろうプロジェクト』

・田舎暮らし支援事業の一環として、ふるさと雇用再生特別基金を活用し、和歌山に愛着を持ち、伝統の和の産品、農林水産物等の和歌山の地域資源を活用し、自ら起業を志す方を「和」の仕事人として募集します。

・若い世代のUターン、Iターンを希望する方に、伝統工芸品や伝統産品の製造、農林水産加工等の事業者のもとで最長2年程度、新商品開発や新規事業展開に関する業務に従事してもらい、その後の起業につなげていただきます。

・10月中に受入事業者を公募により決定し、11月から最大30名の人材募集を開始し、大阪、東京で事業説明会・相談会を開催します。

11/2（月） 大阪ふるさと暮らし情報センター 18:00～20:00
大阪市北区梅田 1-3-1-400 大阪駅前第1ビル4階

11/6（金） 東京ふるさと暮らし情報センター 18:00～20:00
東京都中央区銀座 4-14-11 七十七ビル3階

問い合わせ先：県地域交流課 電話 073-441-2930

ホームページ：[田舎暮らし応援県わかやま](#) で検索

●和歌山県内の「道の駅」が20に

・日高郡由良町大引地内の「白崎海洋公園」が、新たに「道の駅」として登録されました。

・「道の駅 白崎海洋公園」は、石灰岩でできた氷山を思わせる岬に位置しており、スキューバダイビングクラブハウス、ダイビング専用プール等のマリンスポーツ施設、ログハウス、オートキャンプ場等の自然体験型宿泊施設、地元特産品を販売するパークセンター等があります。公園を囲む岩山には、紀伊水道を望む展望台があり、四国、淡路島まで見渡すことが出来、青い海と絶妙のコントラストを描く白い岩が美しい眺望を描きます。

・今後、看板や道路情報端末を設置する予定です。和歌山県にお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。



この秋 東京 和歌山旋風！！ 観光&物産イベント

Le わかやまマルシェ2009 in赤坂サカス

首都圏から和歌山県への観光客誘致を促進するため、昨年に引き続き、首都圏大規模誘客イベントを下記により実施することとなりましたのでお知らせします。

このイベントは、首都圏で多くの集客が見込める話題のスポット「赤坂Sacas」を会場に、マスコミ媒体とも連動することによる首都圏域への和歌山の魅力PRや、「食」を切口に本県ならではの郷土料理を、マスコミや旅行エージェント、また首都圏在住の方々に実際に味わっていただくほか、和歌山観光の魅力を様々な形で体験していただきます。

このイベントの実施により、和歌山により一層興味を持っていただき、首都圏からの観光客の更なる増加を目指します。

記

1. 日時

■平成21年10月16日(金) 19:00～21:00

○マスコミ・エージェントデー

実施内容(予定)

- ・知事プレゼンテーション
- ・シンガーソングライター池田綾子ミニコンサート
- ・炭琴演奏(みなべ炭琴クラブの皆さん)
- ・マグロ解体ショー(勝浦漁業協同組合)
- ・各出展者からの物産と観光プレゼンテーション
- ・プレミア和歌山の紹介



■平成21年10月17日(土)～18日(日) 11:00～19:00

○一般来場者向け

(18日は17:00まで)

- ・フードエリア 和歌山ラーメン、クエ料理、イノブタシャブシャブ、マグロ丼、めはり寿司、さんま寿司
- ・物産エリア 紀州の梅干し全員集合(80種類程度)、みかん、柿、酒、じゃばら他
- ・体験エリア 平安衣装着付け
- ・観光エリア 世界遺産「高野山・熊野三山」、和歌山市、岩出市、紀の川市、有田市、みなべ町、田辺市、白浜町、すさみ町、那智勝浦町、北山村
JAL・南海電気鉄道によるPR、その他県内全域観光PR
- ・集客パフォーマンス 炭琴演奏、紀州よさこい踊り
- ・その他

和歌山大学観光学部の学生11人がインターンシップでスタッフ参加

■昨年実績

日時：平成20年10月24日(金) マスコミ・エージェントデー 約300人参加

平成20年10月25日(土)～26日(日) 一般客対象 サカス全体約6万人入場

*連日テレビ中継実施により、関東圏域に和歌山県観光・物産をPR

2. 会場：TBS赤坂Sacas(屋内及び屋外イベントスペース)

東京都港区赤坂5-3-6

ホームページ：<http://sacas.net/>

世界遺産登録5周年を記念して

東京で高野山・熊野三山シンポジウムを開催します

平成16年7月、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」が今年で5周年を迎えたのを機に、和歌山県ではその価値と魅力を広く発信するさまざまな記念事業を展開しているところです。

この度、東京・日本橋の三越劇場において「高野山」「熊野三山」をはじめとする「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力と価値を発信するシンポジウムを下記のとおり開催いたしますのでお知らせします。

■□■ 「高野山・熊野三山シンポジウム」 ■□■

～グローバルな視点からみた「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値と魅力～

とき 平成21年10月16日(金) 13:30開演(12:30開場)

ところ 三越劇場(日本橋三越本店6階;東京都中央区日本橋室町1-4-1)

内容 ☆第1部☆ 記念講演 浅井慎平(写真家) <敬称略>
写真家の視点で、世界中を旅した実体験に基づき「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力や旅の楽しみ方についてお話しします。

☆第2部☆ シンポジウム

世界中を訪ね歩く旅人として、あるいは世界遺産の地に暮らす住民として、「高野山」「熊野」についてそれぞれの立場からその魅力を語り合います。

- ◆ゲストパネラー 浅井慎平(写真家)
- ◆パネリスト 村上保壽(金剛峯寺執行、高野山真言宗教学部長)
仁坂吉伸(和歌山県知事)
辻林 浩(和歌山県世界遺産センター長)
- ◆聞き手 池田綾子(シンガーソングライター)

参加方法等 定員500人、入場無料、先着順受付(FAX、メール、往復はがき)
詳しくは、和歌山県観光連盟ホームページをご覧ください。
<http://kanko.wiwi.co.jp>



「ちょっとお知らせ(今秋 熊野古道が便利に。)」

- 紀州路快速を快速「熊野古道」として延長運転(始発京橋駅6:03 大阪駅6:11)
運行日:10月から11月の全土曜日と10月11日、11月22日
*10月17日は、紀伊富田駅まで運行
- くろしお1号に接続する「熊野古道アクセスバス」も運行
初心者にもわかりやすく語り部が解説し、世界遺産熊野古道をじっくり楽しんでいただけるよう大阪方面の第1便特急電車に接続したバスを運行。
運行日:10月3日~11月29日の土日祝の計21日



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

紀州の新鮮なウルメイワシは めざしでどうぞ！



うるめ
潤んだ大きな目からついた名前が潤目イワシ。



水揚げされたイワシを手際よく選別。



早朝から活気づくイワシの競り。

～和歌山県のウルメイワシ～

和歌山県のウルメイワシの生産量は、平成19年度産で2,053 tと全国で第9位（全国値60,233 t）。水揚げされたウルメイワシのほとんどはめざし・干物など加工品として京阪神方面の市場へ出荷されています。

～棒受け網によるイワシの漁～

ウルメイワシの県内漁獲量約半数が和歌山県中部に位置する日高地方で水揚げされます。

紀州日高漁協南部町支所管内では、午後7時頃になると漁り火を点し約50隻の船がイワシの大群を追って沖へ向かいます。ウルメイワシは「棒受け網」を使った独特の漁法で、大きな網で海中から一気にすくい上げるため、傷みが少ないのが特徴です。

身が柔らかく、鮮度の落ちが特に早いウルメイワシは、帰港するとすぐに選別され（写真右上）、翌朝7時から始まる競りにかけられます（同右下）。まさに時間との勝負なのです。



棒受け網漁の船

～ウルメといえば干物～

ひらこ かたくち
平子、片口と共にイワシ3大種といわれていますが、ウルメは脂肪分が少なく干物作りに適しています。

ウルメのめざし・丸干しは、軽くあぶるだけで簡単に食べられ、しかもヘルシー。

実はこのめざし作りですが、機械化ができないためシーズンになると、干物業者は大忙し。手作業でウルメの目に串を通し、3昼夜干して出来上がり。



乾燥機から出された目刺し

めざしを選ぶポイントはなんと言っても新鮮さが大事。青みが帯びて全体的に白く光っているものが新しい証拠。地元には梅酢で味付けをしためざしが売っており、また刺身や握り寿司にしたりして和歌山ならではの食べ方もするウルメファンがいるようです。

県では「日高の食材売り込み作戦」を実施し、ウルメなど新鮮な日高地方の食材をPRする活動を行っています。



ウルメイワシの握り寿司

～ウルメイワシの栄養価～

ウルメに含まれるEPA（エイコサペンタエン酸）は血液の流れをよくし、血中コレステロールを下げる働きがあります。また、DHA（ドコサヘキサエン酸）も含まれ、記憶力向上、物忘れ防止が期待されます。

カルシウム含有量が多いことに加え、吸収率を上げるビタミンDも多く含まれ、効率よくカルシウムを摂取できる健康に役立つ魚です。しかも干物のカルシウムは牛乳の5倍、骨粗鬆症予防のためにもすすんで食べていただきたいものです。



驚くべし、ウルメパワー！

～ススキ草原、みさと天文台、ゆったり過ごす 紀美野町 ～

紀美野(きみの)町は、野上町と美里町が平成18年1月に合併して誕生しました。

ススキ草原

・秋は、まるで銀色の海のような、ススキの草原を歩いてみませんか？生石高原は、関西随一といわれるスケールのススキの大草原があります。(表紙写真)生石高原は、標高870mのなだらかな山。ススキ大草原は、13haの面積で、山頂付近にあり、山頂では、360度の大パノラマが広がり、晴天の時には、六甲や淡路、四国も見えます。(ススキの見頃は、9月下旬から10月下旬)

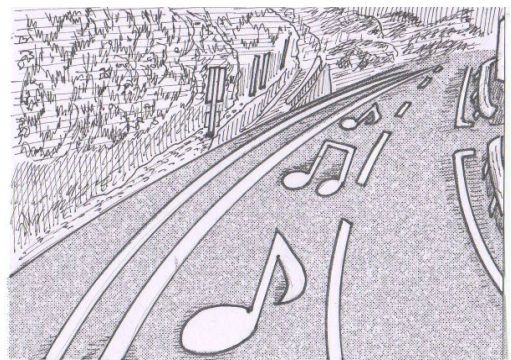
・冬には、ススキに冷気が吹きつけられ、樹氷をつけることもあり、秋とは、また違った美しさが。レストハウス「山の家おいし」では、景色を満喫しながら、喫茶、軽食やお土産選びができます。

みさと天文台

・本格的なスターウォッチングが楽しめる、みさと天文台。口径105cmの反射望遠鏡が設置されていますが、それは一般公開用としては世界でも屈指の大きさ。専門家が案内する「星空ツアー」や「施設見学ツアー」が随時実施され、ゆっくりじっくり、星たちと語り合えます。

メロディーロード

・紀美野町赤木地区に本州で初めてのメロディーロードがあります。「メロディーロード」というのは、車で走るとメロディが聞こえる道路のこと。なぜメロディが？それは、アスファルトの道路上に、溝を切り込むことで、その溝と車のタイヤが接触する時に、発生する走行音で、溝の間隔を変えることで、音階や音の長さを作って、走行車両に乗っている方がメロディとして感じます。なぜ、ここにそういう道がつけられたのでしょうか？



ここには、霊峰高野山への参詣道の1つ「高野西街道」(紀美野町内を東西に横断する国道370号)があります。その活性化の第1弾としてメロディーロードが考えられたのです。

美里温泉かじか荘・たまゆらの里

・貴志川のほとりにたたずむ、かじか荘は、天然温泉の露天風呂、大浴場、サウナをはじめ、旬の素材をふんだんに使った会席、たまゆらの里は、緑豊かな林に囲まれ、バードウォッチングや蛍鑑賞が楽しめるほか、プール・露天風呂・パターゴルフ・バーベキュー炉・レストランが自慢。

紀美野町ホームページ <http://wwbl.town.kimino.wakayama.jp>

～編集後記～

9月に入り和歌山はまだまだ残暑が厳しい日が続いています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。古より暑さ寒さも彼岸までといえます。日中は未だ夏の名残を感じるものの、朝晩は日を追うごとに幾分秋めいてきました。

秋といえば、芸術の秋、運動の秋、食欲の秋などいろいろな秋があります。しかし、なんととっても一押しは収穫の秋です。その収穫を祝うのが、全国各地で行われる秋祭り。

春の祭りはその年の豊作を願い、秋の祭りは五穀豊穰を感謝する。農事とともに歩んできた祭りで、それぞれの地域が賑わいます。

和歌山には、秋祭りの中にいろいろ面白いものがあります。その一つが日高川町「丹生神社」の「笑い祭り」です。その名前のお通り、白粉を塗った派手な出で立ちの「笑い翁」が鈴を振りつつ「笑え～笑え～家（永） 楽じゃ 世は楽じゃ～」とはやし立てながら御輿行列を先導します。今では県内外から多くの観客が来るなど、大人気のお祭りです。今年は、10月11日（日）に開催予定ですので、機会があれば是非皆さんもお越し下さい。

また、海南市「山路王子神社」には「泣き相撲」があります。「土俵に土をつけると元気に育つ」との昔からの言い伝えにより、小さな子供たちを交替に土俵に仰向けに倒すものです。もちろん子供たちは大泣きですが、一方、場内には大人たちの和やかな笑い声が響き渡ります。子供はかわいそうですが、その場のみんなは元気をもらいます。

笑うことは健康の秘訣とは、よくいったもので本当にストレス解消、気分が高揚してきます。笑う門には福来たる。元気な和歌山の実現のためには、県民みんなが、それぞれの家庭や職場で「笑顔」を忘れないことが必要であると思います。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年（平成21年）9月 NO.18

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022